

# 災害碑に刻まれた群馬県南部における歴史災害

青 山 雅 史

## **Historical Disasters in the Southern Part of Gunma Prefecture Recorded by the Disaster-related Monuments**

Masafumi AOYAMA



# 災害碑に刻まれた群馬県南部における歴史災害

青山 雅史

群馬大学共同教育学部社会科教育講座

(2024年10月16日受理)

## Historical Disasters in the Southern Part of Gunma Prefecture Recorded by the Disaster-related Monuments

Masafumi AOYAMA

Department of Social Studies Education, Cooperative Faculty of Education, Gunma University

(Accepted on October 16th, 2024)

### I はじめに

日本列島は地震、津波、火山活動、洪水や土砂災害など、さまざまな種別の自然災害が発生しやすい地域に位置するため、それらによる被害を繰り返し受け、地域社会は大きな影響を被ってきた。そのため、災害による犠牲者の供養や被災教訓の伝承など、多様な目的で自然災害に関連した石造物（石碑）が日本列島の多くの地域において建立されてきた。本稿では、そのような自然災害と関連して建立された石造物や石碑を災害碑と呼称する。

自然災害は同じような地域で繰り返し発生しやすいため、過去の自然災害を正しく知ることは今後の地域防災を検討するうえで役立ち、地域に残された被災状況や教訓が刻まれた災害碑の情報を把握しておくことは重要である。たとえば、2011年東北地方太平洋沖地震に伴い発生した超巨大津波により甚大な被害を受けた三陸地方沿岸部や南海トラフで発生する大規模地震で繰り返し被害を受けてきた西日本太平洋沿岸部では、過去に発生した地震・津波に関連する多数の災害碑が建立されている（卯花 1991, 北原 2001, 首藤 2001, 羽鳥 1978a, 1978b）。

1923年大正関東地震（関東大震災）は死者10万人以上と近代以降日本列島で発生した自然災害の中では最も多くの人的被害を出したが、多くの被害を出した関東地方南部を中心に、多数の災害碑が建立されている（武村 2012）。また、1783年天明浅間山噴火に伴い発生した岩屑なだれ（鎌原岩屑なだれ）や火山泥流（天明泥流）は、浅間山北麓地域から吾妻川、利根川などの河川沿いの地域で死者約1,500名といった大きな被害をもたらし、それらの地域に多数の災害碑が建立された（内閣府防災会議 2006, 関 2018）。

このように、過去に発生した自然災害に関するさまざまな災害碑が日本列島の諸地域において建立されてきたが、それらに関する理解が十分なされていないとも言える。2018年7月西日本豪雨における土砂災害により甚大な被害を受けた広島県の被災地域では、明治期にも同様の災害が発生して災害碑が建立されていたが、地域住民にはその災害碑に刻まれていた被災教訓が十分には伝わっていなかった事例がみられた（国土地理院 2019）。近年頻発する自然災害をめぐるこのような動向を受け、国土地理院は2019年に新しい地図記号「自然災害伝承

碑」を制定し、各地域に残る災害碑を地図記号として掲載し、災害時の適切な防災行動につなげることで災害による被害低減を目指す取り組みを始めた。

しかし、この新たに制定された地図記号「自然災害伝承碑」は、基本的に自治体が国土地理院に対して地形図への掲載を希望して申請したものが地図記号として掲載されるシステムとなっているため、地図記号「自然災害伝承碑」に該当するものが存在しても、自治体が国土地理院への申請を行わなければ地図記号として地形図に掲載されないこととなる。そのため、地形図上に「自然災害伝承碑」が存在しない地域では過去に大きな災害が起きておらず、災害の少ない地域であることを一義的に意味するものではない。

群馬県において、地形図に地図記号として掲載されている「自然災害伝承碑」は、2024年9月時点で48基存在する。しかし、それら以外にも、群馬県内には過去の災害に関連した災害碑は数多く存在している。群馬県では、1947年カスリーン台風や1949年キティ台風などによる豪雨災害以降、死者・行方不明者10名以上となる自然災害は、1959年伊勢湾台風（死者10名）と1966年台風26号（死者15名）による2例のみである（日本気象協会前橋支部 1982、群馬県防災会議 2024）。そのため、群馬県は災害の少ない安全な地域であるといった言説を見聞きすることがある。しかし、数十年～数千年の時間スケールで群馬県で発生した歴史災害をみると、それらの災害を含め、前述の1783年天明浅間山噴火で生じた岩屑なだれや火山泥流による被害、1910年水害、1935年水害など、死者・行方不明者100名以上の大規模災害がしばしば発生している。

本稿では、群馬県南部を対象として行ってきた災害碑に関する調査結果を整理し、その概要を提示する。それらの中には、「自然災害伝承碑」の地図記号として地形図に掲載されているものもあるが、掲載されていないものが多数存在する。群馬県南部に残る災害碑やそれに刻まれた被災教訓などの情報を提供することで、それらの地域における防災・減災を考えるきっかけとなり、地域の防災力の向上の一助となることが期待される。また、本研究の成果は

学校現場での防災教育や地理教育の資料としても活用可能であり、防災教育、地理教育の充実化にも資するものと思われる。

## II 調査地域と調査方法

本研究では、群馬県全域とその周辺各県を対象として、災害碑の位置や碑名、建立年、建立者、碑文の記述内容などに関する調査を2018年以降行ってきた。本稿では、調査がほぼ完了した群馬県南部（安中市、伊勢崎市、上野村、神流町、甘楽町、下仁田町、榛東村、高崎市、玉村町、富岡市、南牧村、藤岡市、前橋市、吉岡町、渋川市の一部地域）と本県との県境部に位置する栃木県、埼玉県の一部地域に関する調査結果を整理し、その概要を示す。

本研究では、文献調査と現地調査により、災害碑に関する情報収集および調査を行った。文献調査ではまず、調査地域の自治体が発行した市町村史において、自然災害と関連した石造物についての記述の有無を調べた。さらに、行政機関や各種団体などが発行した自然災害や災害碑に関連した報告書等出版物（例えば、砂防広報センター1998、ぐんまの土地改良記念碑編集委員会2008）、ウェブ上で情報発信されている過去の自然災害や災害碑の記述、その他出版されている写真集等における記述についての確認も行った。それらの文献やウェブ情報などから、災害碑の建立地点の位置、碑文の記述内容、建立者、建立年や建立意図などの情報を収集した。本稿末尾の文献表には、本研究で参考とした文献やウェブ情報について、本文中で引用していないものを含めて記した。現地調査では、災害碑の建立地点の位置、碑文の記述内容、建立者、建立年や建立意図などの情報などを記録した。また、一部地域においては地元住民への聞き取り調査も行い、災害碑やその地域で過去に発生した災害に関する情報の収集に努めた。

## III 災害碑の概要と災害種別にみた分布

調査地域における災害碑の分布を図1に示す。ま



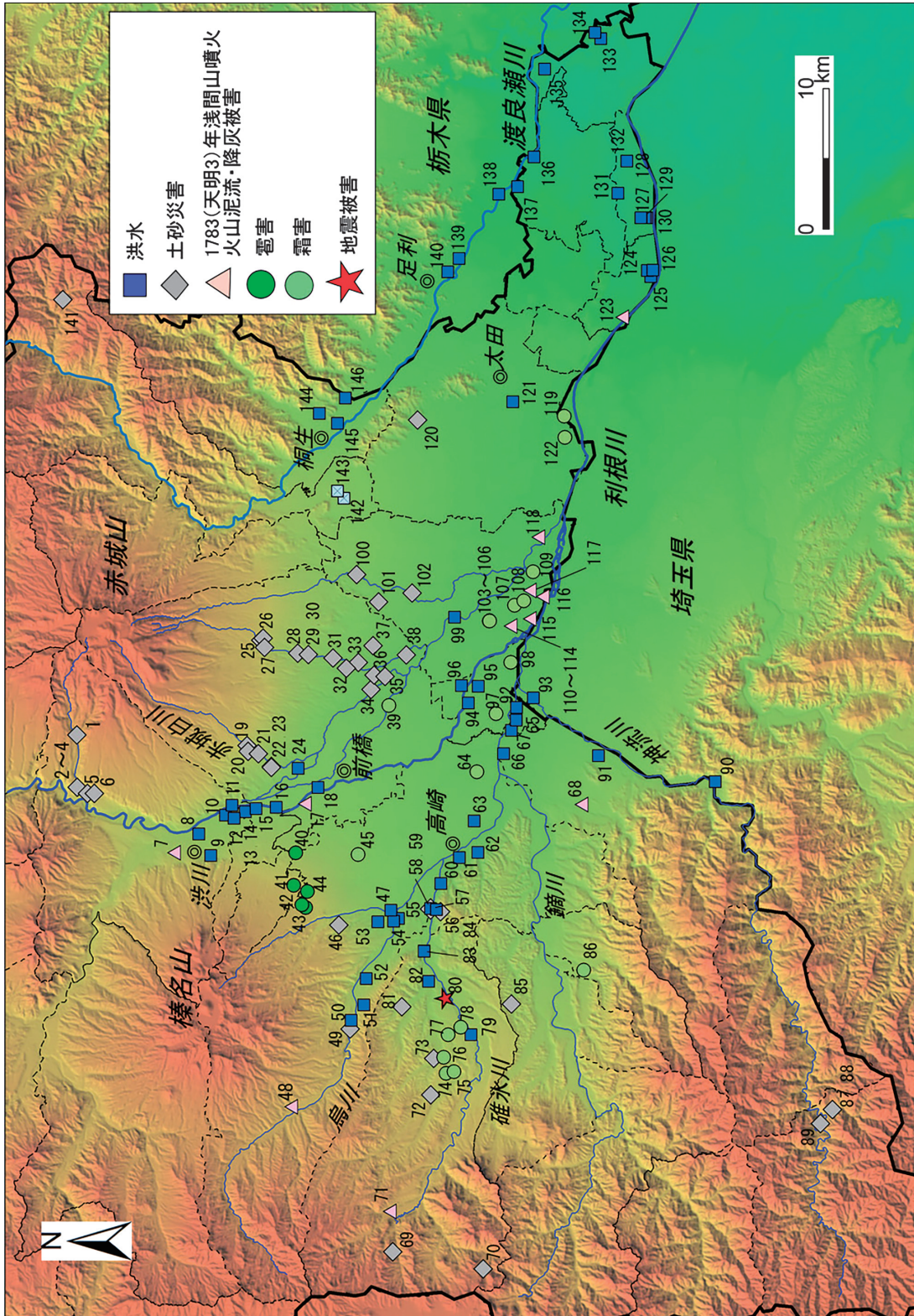


図1 群馬県南部における災害碑の分布（一部埼玉県、栃木県の災害碑も含む）  
図中の数字は、表1の災害碑の番号を示す。

表1 群馬県南部における災害碑の諸情報

番号	流域河川	所在地	碑名	関連する災害	災害種	建立年 (西暦, 和暦)	建立者
1	沼尾川	渋川市赤城町深山	カスリーン台風 災害五十年祈念 碑	1947年カスリーン台風	土砂災害(土石流)	1997年 平成9年9月吉日	建設省, 群馬県, 赤城村
2	沼尾川	渋川市赤城町長 井小川田	慰霊碑	1947年カスリーン台風	土砂災害(土石流)	1979年 昭和54年9月15日	赤城村, 遺族
3	沼尾川	渋川市赤城町長 井小川田	地藏像	1947年カスリーン台風	土砂災害(土石流)	1979年 昭和54年9月15日	赤城村, 遺族
4	沼尾川	渋川市赤城町長 井小川田	水難者精霊之碑	1935年水害 1947年カスリーン台風 1948年アイオン台風 1949年キティ台風	土砂災害(土石流)	1979年 昭和54年9月15日	赤城村, 遺族
5	沼尾川	渋川市赤城町津 久田	殉難之碑	1947年カスリーン台風	土砂災害(土石流)	1958年 昭和33年3月春彼岸	敷島村青年学校教職員, 指導 員, 生徒, 有志
6	見摩入川	渋川市赤城町津 久田	見摩入川災害復 旧記念碑	1947年カスリーン台風	土砂災害(土石流)	1951年 昭和26年10月1日	
7	利根川	渋川市並木町	流死萬霊墓	1783年天明浅間山噴 火・泥流	火山泥流	1783年 天明3年	
8	利根川	渋川市中村	復舊記念碑	1947年カスリーン台風	洪水	1950年 昭和25年1月	中村耕地整理組合
9	利根川	渋川市行幸田	復舊記念碑	1947年カスリーン台風	土砂災害(土石流)	1950年 昭和25年10月	豊秋村
10	利根川	渋川市半田	水害復舊記念	1947年カスリーン台風	洪水	1950年 昭和25年3月31日	
11	利根川	渋川市北橘町下 箱田	竣工記念	1935年水害	洪水	1936年 昭和11年6月14日	廣瀬桃木両堰普通水利組合
12	利根川	吉岡町漆原	災害復旧之碑	1935年水害	洪水	1940年 昭和15年2月下旬	漆原田用水組合
13	利根川	吉岡町漆原	水害復旧記念	1947年カスリーン台風 1948年アイオン台風	洪水	1952年 昭和27年3月	漆原耕地整理組合
14	利根川	吉岡町漆原	記念碑(災害復 旧記念碑)	1947年カスリーン台風 1948年アイオン台風 1949年キティ台風	洪水	1954年 昭和29年9月吉日	群馬県
15	利根川	吉岡町漆原	洪水除け観音 (水観音)	1947年カスリーン台風 1948年アイオン台風 1949年キティ台風	洪水	1950年 昭和25年4月23日	前橋刑務所
16	利根川	前橋市川原町	工事竣工記念	1947年カスリーン台風	洪水	1950年 昭25年5月5日	川原護岸工事早期完成期成同 盟会
17	利根川	前橋市総社町	奉書写大仏頂万 行首楞嚴神呪供 養塔	1783年天明浅間山噴 火・泥流	火山泥流	1784年 天明4年	
18	利根川	前橋市岩神町	大渡橋護水尊	1947年カスリーン台風	洪水	1950年 昭和25年8月20日	(建設者名として9名の個人 名と1社の会社名)
19	赤城白川	前橋市富士見町 小沢	災害復旧記念	1947年カスリーン台風	土砂災害(土石流)	1951年 副碑に「(昭和)26年4 月復旧」とある。	
20	赤城白川	前橋市富士見町 小沢	水難者 供養碑	1947年カスリーン台風	土砂災害(土石流)	1947年 昭和22年9月15日	小沢地区住民一同
21	赤城白川	前橋市富士見町 小沢	カスリン台風災 害五十年 慰霊 の碑	1947年カスリーン台風	土砂災害(土石流)	1998年 平成10年春彼岸	
22	赤城白川	前橋市富士見町 原之郷	水害罹災者供養 塔	1947年カスリーン台風	土砂災害(土石流)	1947年 昭和22年9月15日	原東地区住民一同
23	赤城白川	前橋市富士見町 原之郷	災害復旧記念碑	1947年カスリーン台風	土砂災害(土石流)	1960年 昭和35年4月16日	赤城白川耕地整理組合
24	桃ノ木川	前橋市青柳町	天神用水改修記 念碑	1947年カスリーン台風	洪水	1949年 昭和24年3月	
25	荒砥川	前橋市鼻毛石町	命木之碑	1947年カスリーン台風	土砂災害(土石流)	1988年 昭和63年3月	
26	荒砥川	前橋市鼻毛石町	慰霊碑	1947年カスリーン台風	土砂災害(土石流)	1977年 昭和52年9月15日	鼻毛石区民一同
27	荒砥川	前橋市鼻毛石町	白欠堰復旧記念 碑	1947年カスリーン台風	土砂災害(土石流)	1951年 昭和26年5月	(工事委員として24名の氏 名)
28	荒砥川	前橋市河原浜町	水害記念	1947年カスリーン台風	土砂災害(土石流)	1957年 昭和32年9月15日	



番号	流域河川	所在地	碑名	関連する災害	災害種	建立年 (西暦, 和暦)	建立者
29	荒砥川	前橋市大胡町	昭和水難者供養塔(宮関観世音, 昭和水難観音)	1947年カスリーン台風	土砂災害(土石流)	1949年 昭和24年9月15日	昭和水難者慰霊会
30	荒砥川	前橋市大胡町	昭和水難慰霊碑	1947年カスリーン台風	土砂災害(土石流)	1959年 昭和34年9月15日	昭和水難者慰霊会
31	荒砥川	前橋市泉沢町	水害復旧記念碑	1947年カスリーン台風	土砂災害(土石流)	1955年 昭和30年12月5日	荒砥川耕地整理組合
32	荒砥川	前橋市富田町	水害復旧耕地整理記念碑	1947年カスリーン台風	土砂災害(土石流)	1954年 昭和29年12月19日	富田区民一同
33	荒砥川	前橋市荒口町	水害復興記念	1947年カスリーン台風	土砂災害(土石流)	1951年 昭和26年5月上旬	荒砥川耕地整理組合
34	寺澤川	前橋市女屋町	寺澤川改修記念	1947年カスリーン台風 1948年アイオン台風	土砂災害(土石流)	1953年 昭和28年1月30日	寺沢川改修委員会
35	貴船川	前橋市筑井町	災害復旧	1947年カスリーン台風 1948年アイオン台風	土砂災害(土石流)	1952年 昭和27年3月	木瀬村誌(木瀬村誌編纂委員会1995)に河川改修工事関係者により建立されたとの記述。
36	荒砥川	前橋市今井町	水害復旧耕地整理記念碑	1947年カスリーン台風	土砂災害(土石流)	1955年 昭和30年4月	
37	荒砥川	前橋市二之宮町	土橋用水災害復旧記念碑	1947年カスリーン台風	土砂災害(土石流)	1967年 昭和42年12月	
38	荒砥川	前橋市下増田町	荒砥川改修記念	1947年カスリーン台風 1948年アイオン台風	土砂災害(土石流)	1956年 昭和31年5月13日	荒砥川改修促進委員会
39	広瀬川	前橋市下大島町	蚕霊塔	1935年霜害	霜害	1937年 昭和12年5月7日	下大島養蚕実行組合
40	八幡川	榛東村新井	蚕影山	1887年雹害	雹害		
41	染谷川	榛東村広馬場	蠶影大神	1887年雹害	雹害	1888年 明治21年3月25日	八之海道中
42	井野川	榛東村広馬場	蠶影山大神	1887年雹害	雹害	1888年 明治21年4月8日	上宿中
43	井野川	高崎市箕郷町矢原	蠶影山	1887年雹害	雹害	1888年 明治21年5月	當村有志者
44	井野川	高崎市箕郷町柏木沢	蠶影碑	1887年雹害	雹害	1897年 明治30年5月	
45	井野川	高崎市三ツ寺町	蠶霊神之碑	1890年霜害	霜害	1893年 明治26年4月26日	
46	榛名白川	高崎市箕郷町富岡	殉難之碑	1947年カスリーン台風	土砂災害(斜面崩壊)	1953年 昭和28年3月22日	群馬中部土地改良区
47	榛名白川	高崎市沖町	榛名白川改修記念	1910年水害 1948年アイオン台風	洪水	1970年 昭和45年7月	沖町榛名白川改修対策委員
48	烏川	高崎市倉渕町三ノ倉		1783年天明浅間山噴火・泥流	降灰・飢饉		
49	烏川	高崎市中室田町	供養塔	1935年水害	土砂災害(斜面崩壊)	1947年 昭和22年9月26日	第38世徳孝代
50	烏川	高崎市中室田町	昭和十年大風水害歿死者供養塔	1935年水害	洪水	1936年 昭和11年春	斎藤省三
51	烏川	高崎市上里見町	(薬師如来像)	1742年水害	洪水	1742年 寛保2年	
52	烏川	高崎市中里見町	不明	1910年水害	洪水	1920年 大正9年10月13日	
53	烏川	高崎市本郷町	小堀川耕地整理災害復舊之碑	1947年カスリーン台風 1948年アイオン台風	洪水	1955年 昭和30年5月	嶋上耕地整理組合
54	烏川	高崎市本郷町	昭和十年九月廿五日水害復舊工事竣工記念	1935年水害	洪水		長野堰普通水利組合
55	烏川	高崎市町屋町	町屋井堰之碑	1947年カスリーン台風	洪水	1954年 昭和29年10月20日	
56	碓氷川	高崎市鼻高町	風水害遭難者之碑	1947年カスリーン台風	土砂災害(土石流)	1959年 昭和34年9月15日	遺族一同
57	碓氷川	高崎市鼻高町	耕墾整理記念	1910年水害	洪水	1917年 大正6年10月	
58	碓氷川	高崎市藤塚町	洪水記念之碑	1910年水害	洪水	1918年 大正7年4月	大字藤塚

番号	流域河川	所在地	碑名	関連する災害	災害種	建立年 (西暦, 和暦)	建立者
59	碓氷川	高崎市藤塚町	射水神	1920年地すべりと河道 閉塞による氾濫	土砂災害(地すべり)	1922年 大正11年12月	寄附者 瀧澤喜市
60	碓氷川	高崎市乗附町	田村隧道	1941年水害	洪水	1946年 昭和21年5月	
61	烏川	高崎市片岡町	七士殉職供養塔	1935年水害	洪水	1935年 昭和10年11月26日	高崎市民一同
62	烏川	高崎市石原町	雁行川改修記念 碑	1947年カスリーン台風 1948年アイオン台風	洪水	1950年 昭和25年5月	工事請負人 川崎信一
63	烏川	高崎市倉賀野町	災害復旧記念碑	1947年カスリーン台風	洪水	1947年 昭和22年12月	
64	烏川	高崎市栗崎町	馬鳴大菩薩	1916年霜害	霜害		栗崎村一同
65	烏川	高崎市新町	記念碑	1910年水害	洪水	1921年 大正10年3月13日	
66	烏川	藤岡市中島		1910年水害	洪水	1910年 明治43年11月	
67	烏川	藤岡市立石新田	大洪水溺死者聖 霊供養塔	1910年水害	洪水	1926年 大正15年3月	
68	鮎川	藤岡市緑埜	千部供養塔	1783年天明浅間山噴 火・泥流	降灰	1792年 寛政4年	
69	碓氷川	安中市松井田町 坂本	熊の平殉難碑	1950年水害	土砂災害(斜面崩 壊)	1951年 昭和26年6月9日	日本国有鐵道高崎鐵道管理局 日本国有鐵道労働組合高崎支部
70	碓氷川	安中市松井田町 西野牧	遭難碑	1910年水害	土砂災害(土石流)	1922年 大正11年盛夏	村一同
71	碓氷川	安中市松井田町 坂本	水押砂除供養塔	1783年天明浅間山噴 火・泥流	降灰	1822年 文政5年4月大吉日	坂本中(5名の氏名)
72	九十九川	安中市松井田町 下増田	大堰復興記念碑	1935年水害	土砂災害(斜面崩 壊)・洪水	1937年 昭和12年秋10月吉 辰	(施工委員長, 施工委員6名, 委員7名の氏名)
73	九十九川	安中市中後閑	水害之記	1935年水害	土砂災害(斜面崩 壊, 土石流?)・洪 水	1977年 昭和52年9月16日	
74	九十九川	安中市松井田町 小日向	蛭影大神	1893年霜害	霜害	1894年 明治27年4月	(17名の氏名)
75	九十九川	安中市松井田町 小日向	蛭影大神	1893年霜害	霜害	1894年 明治27年4月	
76	九十九川	安中市松井田町 小日向	絹笠大明神	1893年霜害	霜害	1893年 明治26年12月吉辰	(9名の氏名)
77	碓氷川	安中市原市		1893年霜害	霜害	1894年 明治27年4月3日	八本木一同
78	碓氷川	安中市原市	霜災懲毖之碑	1893年霜害	霜害		
79	碓氷川	安中市築瀬	築瀬堰落成記念 碑	1949年キティ台風	洪水	1968年 昭和43年	
80	碓氷川	安中市安中	改築記念碑	1931年西埼玉地震	地震	1934年 昭和9年7月23日	
81	秋間川	安中市下秋間	墓地移轉之記	1910年水害	土砂災害(斜面崩 壊)・洪水	1917年 大正6年11月	岡田富八
82	碓氷川	安中市安中	城下水路復旧記 念	1935年水害	洪水	1940年 昭和15年9月	
83	碓氷川	安中市板鼻	水害復旧記念碑	1935年水害	洪水	1938年 昭和13年6月	板鼻堰普通水利組合
84	碓氷川	安中市板鼻	板鼻堰災害復旧 記念碑	1935年水害 1947年カスリーン台風 1948年アイオン台風 1949年キティ台風	洪水	1952年 昭和27年10月	
85	鎗川	富岡市上黒岩	大災遭難者供養 塔	1935年水害	土砂災害(斜面崩 壊)	1936年 昭和11年9月26日	
86	鎗川	甘楽町善慶寺	絹笠神社	1893年霜害	霜害	1894年 明治27年5月其日	
87	神流川	上野村新羽	普濟	1907年水害	土砂災害(土石流)		
88	神流川	上野村新羽	懷絶	1907年水害	土砂災害(土石流)	1907年 明治40年12月	
89	神流川	上野村新羽	(地藏尊)	1938年水害	土砂災害(斜面崩 壊)		

番号	流域河川	所在地	碑名	関連する災害	災害種	建立年 (西暦, 和暦)	建立者
90	神流川	埼玉県神川町下阿久原	紀功碑	1910 年水害	洪水	1925 年 大正 14 年 4 月 1 日	
91	神流川	藤岡市本郷	神流川築堤記念	1910 年水害	洪水	1920 年 大正 9 年 5 月	
92	神流川	高崎市新町	沿革之碑	1846 年水害	洪水	1935 年 昭和 10 年 10 月	河岸町
93	神流川	埼玉県上里町勅使河原	矢田堤塘之碑	1846 年水害	洪水	1961 年 昭和 36 年 3 月 31 日	
94	利根川	玉村町福島	水害復旧碑	1947 年カスリーン台風	洪水	1964 年 昭和 39 年 5 月	災害復旧福島耕地整理組合
95	利根川	玉村町南玉	住吉堰改修碑	1935 年水害	洪水	1936 年 昭和 11 年 4 月	(工事代表者, 区長, 工事委員, 下之宮第一耕地整理組合長, 下之宮第二耕地整理組合長らの氏名)
96	利根川	玉村町桶腰	築堤記念碑	1947 年カスリーン台風	洪水	1950 年 昭和 25 年 10 月吉日	(上陽村長, 助役, 築堤委員長, 委員, 区民など多数の氏名)
97	烏川	玉村町上之手	上之手郵霜害記念碑	1916 年霜害	霜害	1916 年 大正 5 年 10 月	(寄付者 53 名, 蚕種製造業者 6 名, 発起人 5 名, 世話人 8 名の氏名)
98	烏川	玉村町南玉	養蚕神	1863 年霜害	霜害	1865 年 元治 2 年	(「セハ人」として 5 名の氏名)
99	広瀬川	伊勢崎市若葉町	昭和二十二年九月十五日大水害水難者供養塔	1947 年カスリーン台風	洪水	1953 年 昭和 28 年 8 月 15 日	伊勢崎市
100	粕川	伊勢崎市赤堀今井町	(判読不能)	1947 年カスリーン台風	土砂災害(土石流)	1950 年 昭和 25 年 12 月	
101	粕川	伊勢崎市下舐町	災害復旧耕地整理桂川改修記念碑	1947 年カスリーン台風	土砂災害(土石流)	1962 年 昭和 37 年如月	災害復旧耕地整理組合
102	粕川	伊勢崎市本関町	水害復旧記念碑	1947 年カスリーン台風	土砂災害(土石流)	1952 年 昭和 27 年 1 月吉日	川原田耕地整理組合
103	利根川	伊勢崎市山王町	蠶影神社	1893 年霜害	霜害	1893 年 明治 26 年 5 月 6 日	(30 名の氏名と「発起人」として 9 名の氏名)
104	利根川	伊勢崎市山王町	蠶影大神	1897 年雹害	雹害	1900 年 明治 33 年 4 月	山王道村(雨?)原組中
105	利根川	伊勢崎市山王町	蠶影大神	1897 年雹害	雹害	1898 年 明治 31 年 4 月	名和村大字山王道村東組中
106	利根川	伊勢崎市山王町	蠶影大神	1897 年雹害	雹害	1899 年 明治 32 年 5 月 25 日	元宿組中
107	利根川	伊勢崎市大正寺町	豊受姫命	1893 年霜害	霜害	1903 年 明治 36 年 8 月	本郷中
108	利根川	伊勢崎市富塚町	蠶霊神	1893 年霜害	霜害		十八世 戒應慧定建之 外村中
109	利根川	伊勢崎市下蓮町	蠶景山大神	1893 年霜害	霜害	1894 年 明治 27 年 4 月 3 日	総郎中 発起(17 名氏名)
110	利根川	伊勢崎市戸谷塚町	供養塔	1783 年天明浅間山噴火・泥流	火山泥流	1784 年 天明 4 年 11 月 4 日	戸谷塚村中
111	利根川	伊勢崎市戸谷塚町	天明地藏尊之碑	1783 年天明浅間山噴火・泥流	火山泥流	1962 年 昭和 37 年 11 月 7 日	(建設委員氏名あり)
112	利根川	伊勢崎市戸谷塚町	高松宮殿下ご来臨の記	1783 年天明浅間山噴火・泥流	火山泥流	1962 年 昭和 37 年 11 月 22 日	戸谷塚区民一同
113	利根川	伊勢崎市戸谷塚町	鎌原地蔵	1783 年天明浅間山噴火・泥流	火山泥流	1982 年 昭和 57 年 11 月 4 日	願主 福田市郎
114	利根川	伊勢崎市戸谷塚町	天明浅間押二百回忌供養塔	1783 年天明浅間山噴火・泥流	火山泥流	1982 年 昭和 57 年 11 月 23 日	戸谷塚区民一同
115	利根川	伊勢崎市八斗島町	為河流各霊菩提	1783 年天明浅間山噴火・泥流	火山泥流	1783 年 天明 3 年 7 月 8 日	
116	利根川	伊勢崎市長沼町	為河流各霊菩提也	1783 年天明浅間山噴火・泥流	火山泥流	1783 年 天明 3 年 7 月 8 日	
117	利根川	伊勢崎市長沼町	為河流各■霊菩提也	1783 年天明浅間山噴火・泥流	火山泥流	1783 年 天明 3 年 7 月 8 日	
118	利根川	伊勢崎市境中島	流死靈魂碑	1783 年天明浅間山噴火・泥流	火山泥流	1783 年 天明 3 年 7 月 8 日	施主 村中
119	利根川	埼玉県熊谷市山王町	蚕影山神社	1893 年霜害	霜害	1899 年 明治 32 年 5 月 25 日	元宿組中

番号	流域河川	所在地	碑名	関連する災害	災害種	建立年 (西暦, 和暦)	建立者
120	利根川	太田市北金井町	災害復旧溜池工事竣工記念之碑	1947 年カスリーン台風	土砂災害(土石流)	1950 年 昭和 25 年 5 月	(設計者 1 名, 施行委員 12 名, 施行者 35 名の氏名)
121	利根川	太田市岩瀬川町	復旧記念碑	1947 年カスリーン台風	洪水	1949 年 昭和 24 年 9 月	(「組合員」組合長, 常設員, 会計, 評議員など職名と 35 名の氏名)
122	利根川	太田市堀口町	(石灯籠)	1893 年霜害	霜害	1893 年 明治 26 年 5 月 7 日	當所 新島語三郎
123	利根川	千代田町舞木	為水死男女菩提也	1783 年天明浅間山噴火・泥流	火山泥流	1783 年 天明 3 年 7 月 8 日	施主 村中
124	利根川	千代田町上五箇	水害記念碑	1910 年水害	洪水	1935 年 昭和 10 年 12 月 20 日	(殉難死亡者 15 名, 行方不明者 27 名, 建設委員等の氏名)
125	利根川	千代田町上五箇	(判読不可)	1910 年水害	洪水	1913 年 大正 2 年 1 月	上五ヶ村 施主 家中惣左衛門(ほか 5 名の氏名) 発起人 吉永三郎次
126	利根川	千代田町上五箇	没死萬霊供養塔	1786 年水害	洪水	1786 年 天明 6 年 7 月 16 日	願主 上五箇村 田嶋半兵衛 今酒巻村 柿沢半兵衛
127	利根川	明和町須賀	(石灯籠)	1823 年, 1824 年水害	洪水	1836 年 天保 7 年 9 月良日	
128	利根川	明和町須賀	墾田碑	1823 年, 1824 年水害	洪水	1916 年 大正 5 年 11 月 25 日	(佐貴村青年会須賀村支部員, 建設委員などの氏名)
129	利根川	明和町須賀	開田碑	1823 年, 1824 年水害	洪水	1928 年 昭和 3 年 5 月 1 日	(御大典記念池沼埋立組合名譽顧問, 顧問, 測量監督, 現場監督などの氏名)
130	利根川	明和町須賀	(「奈良石」の愛称)	1823 年, 1824 年水害	洪水	1842 年 天保 13 年 6 月	須賀村宮亀年刻
131	利根川	明和町南大島	(「三五詠歌碑」の愛称)	1823 年, 1824 年水害	洪水	1833 年 天保 4 年春	
132	利根川	明和町田島	流死為供養塔	1742 年水害	洪水	1742 年 寛保 2 年 8 月 2 日	上州邑楽郡田嶋村 (施主として 6 名の氏名)
133	利根川	板倉町海老瀬	復旧記念	1947 年カスリーン台風	洪水	1953 年 昭和 28 年 3 月	(工事関係者多数の氏名)
134	利根川	板倉町海老瀬	決潰口跡	1947 年カスリーン台風	洪水	1950 年 昭和 25 年 9 月 15 日	(利根川上流工事事務所長横田周平ほか, 工事関係者氏名)
135	渡良瀬川	板倉町除川	原田彌衛之碑	1890 年水害	洪水		
136	渡良瀬川	館林市下早川田町	修堤碑	1910 年水害	洪水	1911 年 明治 44 年	
137	渡良瀬川	館林市傍示塚町	水害記念碑	1910 年水害	洪水	1911 年 明治 44 年	
138	渡良瀬川	佐野市高橋町	築堤記念碑	1914 年水害	洪水	1915 年 大正 4 年 8 月 30 日	(土木工事関係者芳名録として 10 名の職名と氏名, 工事盡力者 3 名の氏名, 建碑委員 23 名と外大字一同)
139	渡良瀬川	足利市猿田町	水神隄碑	1890 年水害	洪水	1911 年 明治 24 年	早川多平(栃木県土木係など工事関係者の氏名記載あり)
140	渡良瀬川	足利市岩井町	渡良瀬川とともに	1947 年カスリーン台風	洪水	2000 年 平成 12 年 3 月 26 日	
141	渡良瀬川	みどり市東町沢入	遭難者菩提之碑	1895 年水害	洪水	1937 年 昭和 12 年 5 月	村井彌市
142	利根川	みどり市笠懸町鹿	感恩之碑	1935 年風害	風害	1936 年 昭和 11 年 4 月 25 日	第七區
143	利根川	みどり市笠懸町阿左美	風害供養	1935 年風害	風害	1936 年 昭和 11 年 9 月 25 日	鹿之川
144	渡良瀬川	桐生市東	水波能賣神	1947 年カスリーン台風	洪水	1956 年 昭和 31 年	
145	渡良瀬川	桐生市新宿	水害殉難者供養塔	1947 年カスリーン台風	洪水	1948 年 昭和 23 年	
146	渡良瀬川	桐生市菱町	桐生大水難霊供養塔	1947 年カスリーン台風	洪水	1979 年 昭和 54 年	

現地調査, 自治体発行の市町村史, 各種文献資料などにより作成。判読の困難な文字は■で表した。

た、それらの災害碑に関する位置、碑名、関連する災害、建立年、建立者などの情報を表1に示す。本調査地域においては、計146基の災害碑が存在することを確認した。

それらを災害種別にみると、洪水と関連したものが60基と最も多く存在する。それに次いで土砂災害（斜面崩壊、土石流、地すべりなどを合わせたもの）に関連したものが43基存在する。それらのほとんどは台風や前線などによりもたらされた豪雨に起因する水害時の洪水や土砂災害であり、1910（明治43）年水害、1935（昭和10）年水害、1947（昭和22）年カスリーン台風水害のいずれかに関連したものが多数を占める。1935年水害に関連した災害碑として、局地的な暴風（突風）の発生により生じた被害（風害）に関する碑がみどり市に2基存在する。

火山活動による災害と関連したものとして、1783年天明浅間山噴火に関するものが15基存在する。そのうち12基は、天明噴火時に発生した大規模火山泥流である天明泥流に関連したものである。また、天明浅間山噴火時における降灰や飢饉に関連した碑が3基存在する。なお、天明泥流に関連する災害碑は、本調査地域よりも上流側の吾妻川流域において多数存在することが確認されている（内閣府防災会議 2006、関 2018）。地震と関連した災害碑は、埼玉県北部の関東平野北西縁断層帯を震源とするとみられている1931年西埼玉地震（萩原ほか 1986）に関する災害碑が、群馬県南西部の安中市において1基のみ確認されており、近世以降における群馬県に甚大な被害をもたらすような大規模地震発生数の少なさを反映している。

本地域においては、霜害や雹害などに関連した災害碑も多く存在しており、霜害に関する災害碑が17基、雹害に関する災害碑が8基確認された。それらは、かつて本調査地域において養蚕（蚕糸業）が盛んであったことを反映している。霜害や雹害により蚕の飼料となる桑の葉が枯死することで蚕の飼育が不可能となり、神社の境内等に穴を掘削して蚕の遺骸を埋葬したことが碑文として刻まれた災害碑が多く存在する（青山 2022）。それらの霜害碑や

雹害碑の多くは明治中期から昭和初期にかけて建立されており、この地域において蚕糸業が盛んであった時期と重なり、本調査地域における当時の養蚕、蚕糸業の重要性を示すものといえよう。

#### IV 風水害（洪水、土砂災害、風害）に関する災害碑

前述のように、洪水や土砂災害、暴風に関連する災害碑は、1947年カスリーン台風水害や1935年水害、1910年水害などのように、特定の豪雨イベントに起因して発生した災害に関連したものが多くを占める。また、そのような豪雨イベントによりもたらされた災害の主要因が洪水か土石流かを厳密に区分、判別することが困難である事例も存在する。本章では、豪雨イベントに起因して発生した洪水、斜面崩壊、土石流、暴風に関連する碑について、いくつかの事例を豪雨イベント（風水害）ごとにみていく。なお、各災害碑に記した「災害碑番号」は、図1および表1において災害碑ごとに付した「番号」に該当する。

##### 1. 1947年カスリーン台風水害

調査地域に多数存在する水害碑の中でも1947（昭和22）年カスリーン台風に関連したものは最も多く、53基存在している。1947年カスリーン台風水害に関連した災害碑については、赤城山西麓から南麓にかけて分布するものに関しては既に報告したが（青山 2020）、本稿ではその後の調査結果も加え、群馬県南部において確認されたものについて述べる。

1947年カスリーン台風は東日本の広範囲に多量の降雨をもたらし、多くの河川流域において洪水や土砂災害などが発生した（中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会 2010）。カスリーン台風が襲来した1947年9月13日11時20分から同月15日20時40分にかけての前橋の降水量は393mmを観測し、群馬県内では特に赤城山および榛名山周辺と群馬県中央部から南部にかけて降水量が多かったようである（中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会 2010）。そのため、赤城山から流下





図2 前橋市岩神町「大渡橋護水尊」(災害碑番号18)  
2020年10月青山撮影。

する河川流域では斜面崩壊や土石流が多発し、その下流の平野部では多くの地域で洪水被害が発生して、群馬県内では死者592名、行方不明者107名、床下浸水39,938戸、床上浸水31,019戸、流失倒壊家屋1,936戸といった甚大な被害が生じた(群馬県1947)。

カスリーン台風に関する水害碑は、「山津波」とよばれる大規模土石流によって多くの人的被害が発生した沼尾川、赤城白川、荒砥川、粕川などの赤城山から流下する河川流域の谷底平野や火山麓扇状地に立地する地区において多数建立されている。それらの多くは、土石流による犠牲者を悼むために建立されたものや、災害復旧工事の竣工を記念して建立されたものである(青山 2020)。榛名山南麓の火山麓扇状地や碓氷川下流域などにも、カスリーン台風による土砂災害や洪水に関連した碑が存在する。

沼尾川流域の渋川市赤城町長井小川田には、33回忌にあたる1979年に遺族などによって建立された水害碑が3基(災害碑番号2~4)存在する。このうちの一つである水難者精霊之碑(災害碑番号4)には、カスリーン台風水害時の沼尾川流域における犠牲者80名のほか、1935年水害の犠牲者5名、1948年アイオン台風による犠牲者1名、1949年キティ台風による犠牲者1名の氏名が刻まれている。赤城山南西麓の前橋市富士見地区では、赤城白川で発生した「山津波」により104名の死者があり、富士見町小沢には小沢地区の水難死亡者39名の氏名を刻んだ水難者供養碑(災害碑番号20)、富士見町

原之郷には原東地区における死者54名の氏名を刻んだ水害罹災者供養塔(災害碑番号22)などが建立されている。また、赤城山南側斜面を流下する荒砥川流域の前橋市大胡地区には、大規模土石流による被災状況や犠牲者71名の氏名、被災からの復旧・復興過程などを刻んだ水害碑(災害碑番号28)や、カスリーン台風水害発生後に設立された昭和水難慰霊會が建立した観音像(災害碑番号29)、大胡地区のみならず荒砥川や粕川流域における犠牲者の氏名を刻んだ水害碑(災害碑番号30)などが建立されている。

カスリーン台風襲来時の豪雨による山崩れで鳴沢湖の築造工事の作業宿舎が倒壊して6名が死亡し、1949(昭和24)年の鳴沢湖築造工事殉職者1名を合わせた計7名を悼む「殉難之碑」が榛名山南麓の高崎市箕郷町富岡に建立されている(災害碑番号46)。高崎市街地西部の観音山丘陵を北に流下する小河川である寺沢川では土石流が発生し、高崎市鼻高町の寺沢川沿いには、カスリーン台風水害発生から十三回忌に当たる1959(昭和34)年に遺族によって建立され、受難者氏名として11名の氏名が刻まれた「風水害遭難者之碑」が存在する(災害碑番号56)。

渋川市から前橋市、玉村町にかけての利根川やその支流沿いの低地(広瀬川低地)では、洪水被害が多数の地点で発生し、その被害に関する碑が複数存在する。利根川右岸の渋川市中村には、当地区を襲った利根川の洪水による被災状況や復興過程などを刻んだ水害碑(災害碑番号8)が建立されており、それと同様の水害碑は、利根川右岸の渋川市半田(災害碑番号10)、吉岡町漆原(災害碑番号12~14)や、利根川左岸の前橋市川原町(災害碑番号16)などにも存在する。前橋市中心市街地付近の利根川に架橋されている大渡橋は本水害で被災し、橋の一部が流失した(前橋市戦災復興誌編集委員会編 1964)。その大渡橋の左岸側の袂(岩神町)には、本水害による大渡橋の被災が記述された水害碑が存在する(図2、災害碑番号18)。なお、この大渡橋は、後述する1935年水害時にも、橋梁の一部が流失している(前橋市戦災復興誌編集委員会編 1964)。玉村



町福島には、玉村町の利根川右岸堤防6地点で破堤が生じ、多くの家屋被害、広域的な浸水が生じた様子や復興過程を記した水害碑が存在する（災害碑番号94）。伊勢崎市中心部西側を流れる広瀬川では洪水により多くの家屋の流失や浸水被害が発生し、伊勢崎市若葉町の広瀬川右岸堤防状には、伊勢崎市内における死者40名の氏名を刻んだ水害碑（災害碑番号99）が建立されている。

渡良瀬川流域では、堤防決壊や越水が多数の地点で発生して洪水被害が頻発し、死者・行方不明者は桐生市で146名、足利市で319名と甚大な被害が発生した（中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会 2010）。桐生市内には3基の水害碑が建立されており、新宿三丁目の定善寺境内には、桐生市内のカスリーン台風水害における死者が刻まれた水害碑が存在する（災害碑番号145）。足利市岩井町の渡良瀬川左岸堤防では破堤が生じ、足利市街地の広域に浸水被害がもたらされた（中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会 2010）。その破堤地点付近には、本水害による犠牲者の氏名を刻んだ石碑やシンボルタワー、地蔵尊、供養塔などが建立されており（災害碑番号140）、現在でもこの地において毎年供養が続けられている。板倉町においても渡良瀬川（渡良瀬遊水地）の堤防が決壊して板倉町が広域的に浸水する被害が発生し、堤防決壊地点には被災状況や教訓、治水対策の必要性などを刻んだ水害碑が建立されている（災害碑番号134）。

## 2. 1935年水害

1935（昭和10）年9月下旬に日本列島に襲来した台風の影響によって豪雨が引き起こされ、群馬県内では9月24日から翌25日にかけて、特に群馬県西部を中心として多量の降水がもたらされた（群馬県 1937）。その影響により、群馬県南西部の碓氷川、烏川や県西部の吾妻川などの上流域の山間部では土石流や斜面崩壊が多発し、それらの河川下流側の平野部では洪水被害が発生した（群馬県 1937）。群馬県内では、この水害によって死者218名、行方不明者39名、床下浸水13,320戸、床上浸水4,011戸、流失家屋859戸といった甚大な被害が生じた（日本



図3 高崎市中室田町「昭和十年大風水害歿死者供養塔」（災害碑番号50）2020年4月青山撮影。

気象協会前橋支部編 1982）。

調査地域における1935年水害に関連した水害碑は12基存在する。それらは、犠牲者の供養のために建立された碑のほか、「用水組合」や「普通水利組合」などにより建立された用水路復旧を記念した碑が目立つ。

1935年水害に関連する碑は、多量の降水があり、斜面崩壊や大規模土石流「山津波」による甚大な被害が生じた烏川や碓氷川支流の九十九川流域の山間部において、多数建立されている。安中市の山間部を流下する九十九川の谷底平野にある下増田には、当地区において多くの人畜の死傷、耕地の流出、山林の崩壊などが生じたことや、当地区における復旧工事について、その作業期間や工費などを詳細に記した水害碑が存在する（災害碑番号73）。その九十九川支流の後閑川流域の中後閑には、当地区（旧後閑村）で発生した土砂災害の被災過程を詳細に記し、旧後閑村では死者38名、重軽傷者200余名、家屋倒壊流失等100戸に及び、全ての橋梁が流失など、甚大な被害が生じたことを刻んだ水害碑が建立されている（災害碑番号73）。富岡市北部の鐺川支流山間部にある上黒岩には、当地区の被災状況、崩壊発生箇所数や被災農地面積、当地区における罹災者

8名の氏名や死因などを刻んだ水害碑が一周忌に建立されている（災害碑番号85）。

烏川流域にも1935年水害に関する碑が複数存在する。烏川流域において山地と平野の境界部付近に位置する高崎市中室田町には、土砂災害により犠牲となった寺院の住職を供養する水害碑（災害碑番号49）や、当地区の犠牲者と思われる9名の氏名を刻んだ「昭和十年大風水害歿死者供養塔」（図3、災害碑番号50）などが建立されている。烏川流域の高崎市街地では烏川沿いの低地において大規模な洪水被害が発生し、水害発生時の救護活動中に殉職した旧陸軍15連隊の兵士7名を碑に刻んだ「七士殉職供養塔」（災害碑番号61）が、烏川右岸の片岡町に存在する。1935年水害時に発生した洪水被害に関連した碑は、利根川左岸の渋川市北橘町下箱田（災害碑番号11）や同右岸の吉岡町漆原（災害碑番号12）、同左岸の玉村町南玉（災害碑番号95）など、利根川沿いの平野部にも複数建立されている。

1935年水害発生時には、みどり市（旧笠懸村）において竜巻と思われる突風による被害が多発した。この竜巻と思われる突風は1935年水害時に襲来した台風の影響によるものと考えられており（笠懸村誌編纂室 1987）、旧数塚本町付近から旧笠懸村鹿付近にかけた帯状の領域に甚大な被害をもたらした（群馬県 1937）。笠懸町鹿には、全壊50戸、半壊25戸、死者4名といった甚大な被害が当地区に生じたことや、皇室からの御下賜金、県からの罹災救助金など、各方面からの援助への感謝などを刻んだ碑（災害碑番号142）があり、笠懸町阿佐美には、風害の死者4名の氏名と「風害供養」の文字が刻まれた地藏菩薩（災害碑番号143）が存在する。

### 3. 1910年水害

1910（明治43）年8月上旬に梅雨前線と台風の影響によって多量の降水が広域にもたらされ、関東・甲信越・東北地方の広範囲にわたって甚大な被害が発生した（群馬県 1971）。関東地方では利根川や荒川など多数の河川において破堤が生じ、利根川や荒川流域の低地が広域にわたり浸水した。群馬県では県南西部の碓氷郡、烏川や鎗川、神流川など

の河川下流域や合流点付近に位置する多野郡、利根川の破堤によって広域的な浸水が生じた県南東部の邑楽郡などにおいて、多くの人的被害が発生した（群馬県議会議事事務局 1954）。群馬県内におけるこの水害による死者は284名、流出・破損・半潰・全潰家屋は4,934戸、浸水被害（床上浸水および床下浸水）を受けた家屋は27,154戸であった（群馬県議会議事事務局 1954）。

このような被害状況を反映して、調査地域における1910年水害に関する災害碑は、碓氷川、烏川、鎗川、神流川などの流域や、県南東部の利根川と渡良瀬川沿いの地域に多数建立されている。

碓氷川上流部の長野県との県境付近の安中市松井田町西野牧には、暴風雨の襲来により発生した斜面崩壊や土石流によって溺死した17名を供養するため、発災から13年後に当時の村民により建立された碑が存在する（災害碑番号70）。安中市下秋間には、暴風雨の襲来により碓氷川支流の秋間川が氾濫し、当地区において多くの家屋被害が生じたこと、山崩れにより4名が死亡したことや、農地や山林の被害面積、被災した墓地の移転経緯などが刻まれた水害碑が建立されている（災害碑番号81）。碓氷川下流側の高崎市鼻高町には、暴風雨により碓氷川が



図4 高崎市藤塚町「洪水記念之碑」（災害碑番号58）  
2020年4月青山撮影。

氾濫して多くの家屋が流失したことや、鼻高地区における堆積土砂に覆われた水田面積が記され、そこからの復旧過程が刻まれた記念碑がある（災害碑番号 57）。その碓氷川対岸の藤塚町には、暴風雨の襲来により碓氷川が増水して当地区において破堤が生じ、それによって当時の藤塚村において多くの家屋が被災し、死者 2 名、行方不明者 1 名などの被害が生じたことや、被災からの復旧過程、皇室からの御下賜金への感謝などが述べられた洪水記念碑が存在する（図 4、災害碑番号 58）。烏川と鐺川合流地点付近の藤岡市中島から高崎市新町にかけての烏川右岸には、この地域において甚大な洪水被害が発生したことを受けて 3 基の waterside 碑が建立されている。それらについては、宮（2020）が当該地区の 1910 年水害による被災状況を含めて詳しく述べている。

神流川を挟んで藤岡市鬼石地区と埼玉県神川町下阿久原地区とを結ぶ上武橋の右岸（埼玉県）側の袂には、1909（明治 42）年に架橋された上武橋が 1910（明治 43）年の本水害で流失し、1912（大正元）年に架橋されたが、1913（大正 2）年の大洪水で再度流失したこと、その後 1922（大正 11）年に架橋されるに至る経緯などが刻まれた水害碑が存在する（災害碑番号 90）。藤岡市本郷の土師神社境内には、本水害による本郷地区の甚大な被害と、それを受けた当時の美九里村民の請願により当地区に新しい堤防が築かれたことなどが刻まれた築堤記念碑が建立されている（災害碑番号 91）。

群馬県南東部の邑楽郡においても、利根川や渡良瀬川において多くの地点で破堤が生じたことにより広域的な浸水被害がもたらされ、甚大な被害が発生した。千代田町上五箇には、利根川が増水により利根川堤防が決壊し、当時の富永村において死者 14 名、行方不明者 28 名、流失家屋 47 戸、浸水家屋 580 戸といった甚大な被害が生じ、ほとんどの農地が砂礫に埋没して池沼と化したことや、皇室からの御下賜金への感謝、被災後の復旧過程などを記した水害記念碑（災害碑番号 124）や、上五箇地区における死者の氏名を刻んだ慰霊碑（災害碑番号 125）が存在する。渡良瀬川と矢場川の合流点付近に位置する傍示塚町の矢場川右岸堤防近傍には、本水害により本



図 5 明和町田島「流死為供養塔」に刻まれた「出水此塔地一丈五尺」の文字（災害碑番号 132）  
2021 年 4 月青山撮影。

地区の堤防が約 87m（48 間）にわたって決壊し、多くの家屋に浸水被害が発生したこと、当地区では死者が出なかったことや復旧過程などが刻まれた「水害記念碑」が建立されている（災害碑番号 137）。

#### 4. 江戸期の水害

調査地域における江戸期の水害碑は、1742（寛保 2）年水害、1786（天明 6）年水害、1823（文政 6）年および 1824（文政 7）年の水害、1846（弘化 3）年水害に関連したものが存在する。

明和町田島には、1742 年の水害時における流死者供養塔が建立されており、供養塔が建立された地点において約 4.5m（一丈五尺）浸水したことが施主 5 名の氏名とともに刻まれている（図 5、災害碑番号 132）。千代田町上五箇には、1786（天明 6）年水害による犠牲者の供養塔が建立されており、当地の堤防が約 265m の区間にわたって破堤した（切所百四十六間）ことが刻まれている（災害碑番号 126）。

明和町には、1823（文政 6）年と 1824（文政 7）年の 2 年連続で発生した水害に関する水害碑が複数存在する。この 2 年連続で発生した水害により、明



和町須賀地区には利根川堤防の破堤によって北池、西池と称する2つの池沼が形成されたことが、後述の複数の災害碑に刻まれている。北池は1914（大正3）年に埋め立てられて水田が造成され、その経緯を刻んだ碑が須賀地区の菅原神社に存在する（災害碑番号128）。その菅原神社境内には、1824（文政7）年の水害を受けて当時の上三林村（現在の館林市上三林）の荒川玄庵が（須賀村に）五十両の助成を施したことが石灯籠に刻まれている（災害碑番号127）。西池は1928（昭和3）年に埋め立てられて水田が造成され、そのことを刻んだ碑がかつて存在した西池の近傍地に建立されている（災害碑番号129）。明和町須賀の利根川左岸堤防上には、1823（文政6）年と1824（文政7）の2年連続で発生した洪水被害により村の寺院や多くの家屋が流失し、農地は砂に覆われたことや、現在の熊谷市にあたる武州幡羅郡下奈良村の名主であった吉田市右衛門が被災地に多くの金銭的援助を施し、そのことへの謝意を刻んだ「奈良石」とよばれる碑が存在する（災害碑番号130）。明和町南大島には、1823（文政6）年から1825（文政8）年にかけて3年連続で水害に見舞われ、その被災状況や、被災地の復旧・復興に尽力した人々の活動やそれらの人々への感謝の意などを詠歌十五首とともに刻んだ「三五詠歌碑」とよばれる碑が建立されている（災害碑番号131）。

烏川と神流川の合流点付近の高崎市新町と埼玉県上里町勅使河原には、1847（弘化3）年の水害に関する碑が存在する。高崎市新町の烏川右岸にある諏訪神社境内には、神流川と烏川の合流点付近、神流川右岸の埼玉県側にかつて存在していた毘沙吐村に鎮座していた諏訪神社が1847（弘化3）年の大洪水により流失し、村全体が壊滅的な被害を受けたこと、その後諏訪神社を含め全村神流川対岸（左岸）の高崎市新町地区（旧河岸町）に移転した経緯などが記された水害碑が存在する（災害碑番号92）。上里町勅使河原の神流川右岸堤防上には、神流川右岸堤防が決壊して、神流川と烏川合流地点よりも下流側の地域の多数の集落が浸水して甚大な人的・物的被害が生じたことや、その後の堤防補強工事などの当地域における防災対策の進展などが記された碑が存在

する（災害碑番号93）。

## 5. その他の水害

安中市松井田町坂本の旧信越本線熊ノ平駅では、1950（昭和25）年6月8日に発生した山崩れで土砂が熊ノ平駅構内に流入して国鉄職員が復旧作業にあたっていたが、翌日の6月9日に再度山崩れが発生し、作業中の国鉄職員と鉄道官舎にいた国鉄職員の家族の計50名が犠牲となった。熊ノ平駅構内には、犠牲者を悼む「熊の平殉難碑」が建立されている（災害碑番号69）。

神流川上流部の上野村新羽には、1907（明治40）年8月25日に瀧之澤で発生した山崩れで埋没して亡くなった41名を供養するために建立された普濟（あまねくすくう）の文字と犠牲者の氏名が刻まれた碑がある（災害碑番号87）。その碑の隣には、明治40年8月の大雨により上野村瀧之澤で山崩れが発生して大字野栗の人家8戸、37棟の建物が埋没して41名の死者があったこと、群馬県知事が被災地に視察に訪れたことや死者を弔うために建碑したことなどを「悽絶」の文字とともに刻んだ碑が建立されている（災害碑番号88）。

渡良瀬川流域の板倉町と栃木県足利市には、1890（明治23）年に発生した水害に関する碑が存在する。渡良瀬川近傍の板倉町除川には、1890（明治23）年水害時に当地区の水防活動に従事していた男性1名が堤防決壊による氾濫に飲まれて殉職し、殉職者を供養するために建碑されたことなどを刻んだ水害碑が存在する（災害碑番号135）。渡良瀬川左岸の足利市猿田町には、水神堤と称する当地区の渡良瀬川堤防が1890（明治23）年に決壊したこと、その後の堤防の復旧工法や復旧経緯などが刻まれた水害碑が存在する（災害碑番号139）。

## V 火山活動と地震活動に関する災害碑

群馬県内には赤城山、浅間山、草津白根山、日光白根山、榛名山の5つの活火山が存在する。群馬県内における火山活動に関する災害碑は、浅間山において1783（天明3）年に発生した噴火（天明噴火）

とそれに伴う土石なだれ（鎌原土石なだれ）や火山泥流（天明泥流）などにより生じた被害に関するもののみである。天明泥流は吾妻川から利根川を流下し、河口まで到達して太平洋に流入したとされ、その一部は分流して江戸川に流入して多くの遺体が江戸川沿岸部にも漂着したとされる（内閣府防災会議 2006）。このような甚大な被害を受け、鎌原土石なだれで甚大な被害を被った浅間北麓の孺恋村鎌原地区や、天明泥流が流下した吾妻川や利根川、江戸川沿岸部などには、鎌原土石なだれや天明泥流の犠牲者の供養、それらによる被災状況や被災教訓の後世への伝承など、さまざまな理由で多くの災害碑が建立された（内閣府防災会議 2006, 関 2018）。天明噴火に関わる災害碑についてはこれまで多くの調査・研究がなされており、多くの蓄積が得られている（内閣府防災会議 2006, 関 2018）。本研究で示した天明噴火に関わる災害碑は、これらの既存研究において提示されているものである。

本調査地域においては、渋川市から千代田町にかけての利根川沿岸部において、天明泥流に関する災害碑が点在している。それらの多くは、天明泥流によって上流から流されてきた多数の遺体が漂着し、それらの遺体を地元住民が収容して埋葬したことや、泥流による犠牲者の供養などを刻んだものとなっている。伊勢崎市戸谷塚町には、天明泥流災害発災1年後（1784（天明4）年）に建立された「供養塔」の文字が基壇に刻まれた地藏（災害碑番号110）、その建立経緯や当地区において漂着した多数の遺体を埋葬したことや被災者への供養などを記して百八十回忌（1962（昭和37）年）に建立された「天明地藏尊之碑」（災害碑番号111）、百八十回忌供養と「天明地藏尊之碑」建設除幕の式典に高松宮殿下の臨席を記した「高松宮殿下御来臨の記」（災害碑番号112）、二百回忌（1982（昭和57）年）に建立された「鎌原地蔵」（災害碑番号113）など、天明泥流に関わる4基の災害碑が存在する。

そのほかにも、天明噴火による降灰状況や農地・農作物の被災状況、その後生じた飢饉などを刻んだ災害碑も、浅間山から比較的近い位置にあり、多量の降灰があった群馬県南西部に複数存在する。藤



図6 高崎市箕郷町柏木沢「蠶影碑」（災害碑番号44）  
2020年12月青山撮影。

岡市緑埜の「千部供養塔」（災害碑番号68）には、天明噴火発生時の状況や降灰量、降灰の影響による凶作とそれにより生じた物価高騰などに関する情報が刻まれている。

調査地域における地震活動に関わる災害碑は、安中市安中の愛宕神社境内に建立された「改築記念碑」（災害碑番号80）のみであり、1931（昭和6）年西埼玉地震による当神社における被害状況を記したものである。

## VI 霜害、雹害に関する災害碑

調査地域における霜害や雹害に関する災害碑については、青山（2022）で詳述したため、ここではその概要について述べる。

江戸中期以降、養蚕業が盛んになるにつれて地域における養蚕業の重要性は増し、地域に収益をもたらす蚕を神（蚕神）として祀る「養蚕信仰（蚕影信仰、絹笠信仰）」が広まっていった（阪本 2008）。養蚕が盛んであった群馬県においては、豊蚕祈願、蚕の供養などのために養蚕信仰に関連した石碑（蚕神碑）、石造物が多数建立されていった（阪本 2008, 富岡製糸場世界遺産伝道師協会編 2018）。

養蚕業は降雹や降霜などによる被害をたびたび受けてきた。桑の葉が降雹、降霜などにより枯死すると蚕の飼料が得られなくなり、蚕の飼育が不可能となる。神社の境内等に穴を掘削して蚕の亡骸を埋納し、その場所に塚を造成して蚕を供養するとともに、雹霜害の「戒め」として後世に伝えるため、霜害碑や雹害碑が建立された。養蚕に関連した石碑の建立理由は上述のようにさまざまであるが、地域における養蚕の重要性（依存度）が高まった幕末から明治期に、養蚕が盛んに行われていた地域において多くの養蚕関連碑が建立された。また、「蚕影大神」など碑名のみがあり、碑文のない石碑については建立理由が判然としないものもある。

調査地域において、霜害や雹害に関する碑文が刻まれた碑で最も古いものは、玉村町飯倉の「養蚕神」碑である（災害碑番号 98）。その碑文に、「三季癸亥」、「降霜雪如」などと記されており、1863（文久 3）年の霜害を記したものである。

霜害や雹害に関する碑文のあるものは、そのほとんどが明治中期に建立されている。それらはおもに 1887（明治 20）年雹害、1893（明治 26）年霜害に関連した碑である。この時期にはそれらの霜害や雹害以外にも、1890（明治 23）年霜害、1897（明治 30）年雹害などに関する記述が碑文に刻まれている碑が存在する。

1887 年雹害碑は、降雹被害が多発した榛名山南東麓に分布している。高崎市箕郷町柏木沢には、1887（明治 20）年 5 月 23 日の降雹で 30cm 以上雹が積もり、当地区の桑葉、麦穂、野菜に甚大な被害が生じ、蚕の飼料となる桑の葉がなくなったことで蚕の飼育が不可能となったため、村民は蚕児を地中に埋めたことなどを刻んだ「蠶影碑」が建立されている（図 6、災害碑番号 44）。

1893 年霜害碑は調査地域に広域的に分布するが、特に安中市と伊勢崎市に多数分布する。伊勢崎市山王町の日枝神社境内には、1893（明治 26）年霜害に関する碑が 1 基（災害碑番号 103）と、1897（明治 30）年雹害に関する碑が 3 基（災害碑番号 104～106）存在する。1897（明治 30）年雹害に関する 3 つの碑は、当時の山王道村の異なる組名が記されて

いることから、山王道村内のそれぞれの組において 1897 年雹害に関わる碑を建立したものである。

そのほかには、大正 5（1916）年霜害に関する記述のある碑が玉村町（災害碑番号 97）と高崎市東部の栗崎町（災害碑番号 64）に存在する。本調査地域で霜害や雹害に関する記述のある碑で最も新しいものは、1935（昭和 10）年霜害を受けて 1937（昭和 12）年に前橋市下大島町に建立された「蚕霊塔」である（災害碑番号 39）。

それら以外にも、霜害や雹害に関する碑文はないものの、碑が建立された要因として霜害や雹害との関連が指摘されている蚕神碑は複数存在する。

## VII まとめ

本稿では、群馬県南東部（一部県境付近の栃木県、埼玉県を含む）における災害碑の概要を提示した。群馬県南東部では、計 146 基の災害碑を確認した。災害種別ごとにみると、洪水と関連したものが 60 基、土砂災害に関わる碑が 43 基、風害に関するものが 2 基存在する。それらの多くは、1947（昭和 22）年カスリーン台風水害、1935（昭和 10）年水害、1910（明治 43）年水害に関連したものである。本調査地域で明治期から昭和初期にかけて盛んに行われていた養蚕業と関連がある霜害碑が 17 基、雹害碑が 8 基存在する。1783 年天明浅間山噴火による火山泥流、降灰などに関連した災害碑は 15 基存在する。地震被害に関連した災害碑は、1931 年西埼玉地震に関連したものが 1 基存在する。

群馬県では 1947 年カスリーン台風水害以降、多くの人的・経済的被害をもたらした「大災害」の発生は少ないため、一般的に災害が少ない安全な地域といったイメージが流布されている。しかし、長期的な時間スケールでみると、地域社会に甚大な被害をもたらした大規模災害がたびたび発生しており、犠牲者の供養や災害復旧を記念するために建立された災害碑が多数建立されていることが明らかとなった。それらには、地域における被災状況や災害からの復旧過程などが詳細に刻まれたものが多く存在する。自然災害は同じような地域で繰り返し発生する



傾向があるため、過去の被災教訓を刻んだ災害碑は地域社会にどのような災害リスクがあるか検討するうえで重要な資料となりうる。

今後、本研究で蓄積した災害碑に関する情報を多くの地域住民に周知することを意図して、ウェブによる情報発信を今後行うことを検討している。個々の災害碑の位置情報や災害碑から読み取れる情報などについて発信し、地域防災力の向上につなげていきたいと考えている。

本稿の骨子は日本地球惑星科学連合 2020 年大会、同 2022 年大会において発表した。本研究の一部は、JSPS 科研費（基盤研究（C）20K01140）、国土地理協会第 23 回（2023 年度）学術研究助成金を用いて行った。本研究を行うにあたり、現地調査の際に地域の歴史や災害碑に関する情報をご提供いただいた地域住民の方々、災害碑の情報提供や現地調査に同行いただいた群馬大学共同教育学部（教育学部）社会専攻卒業生のみなさんをはじめ、多くの方々からご協力いただいた。ここに厚く御礼申し上げます。

## 文 献

- 青山雅史 2020. 赤城山西麓・南麓における 1947 年カスリーン台風災害碑の分布と特徴. えりあぐんま 26, 23-45.
- 青山雅史 2022. 群馬県南部における雹霜害碑とその建立経緯の検討. 群馬大学共同教育学部紀要人文・社会科学編 71, 65-73.
- 安中市市史刊行委員会編 2002. 『安中市史第六巻 近代現代資料編 1』安中市.
- 伊勢崎市編 1985. 『伊勢崎の近世石造物』
- 伊勢崎市編 1987. 『伊勢崎市史 資料編 5 近現代Ⅱ』
- 板倉町史編さん委員会編 1980. 『板倉町史基礎資料第 84 号 利根川中流地域 板倉町周辺低湿地の治水と利水 別巻四 一水場の生活と知恵Ⅰ』
- 井上公夫 2018. 『歴史的大規模土砂災害地点を歩く』丸源書店.
- 井上公夫 2019. 『歴史的大規模土砂災害地点を歩く（そのⅡ）』丸源書店.
- 上野村教育委員会編 2003. 『上野村誌（Ⅶ）上野村の地誌』上野村.
- 卯花政孝 1991. 三陸沿岸の津波石碑—その 1・釜石地区—.
- 東北大学工学部 津波工学研究報告 8: 171-230.
- 大胡町誌編纂委員会編 1976. 『大胡町誌』大胡町.
- 大胡町水難誌編纂委員会編 1997. 『大胡町水難誌』大胡町.
- 大友農夫寿・新井幸人 1983. 『写真集 富士見村の文化財』富士見村郷土研究会.
- 尾島町誌編纂委員会編 1978. 『尾島町誌資料集第二篇 尾島町の石像遺物』
- 笠懸村誌編纂室編 1987. 『笠懸村誌下巻』笠懸村.
- 金井竹徳・櫻井知得・石田寿信・永島政彦・伊藤克枝・鈴木英恵 2015. 養蚕と災害—雹霜害碑の調査—. 群馬歴史文化遺産発掘・活用・発信実行委員会. 編『群馬の歴史文化遺産—近現代・養蚕文化—調査報告書』19-40. 群馬歴史文化遺産発掘・活用・発信実行委員会.
- 上郊村誌編纂委員会編 1976. 『上郊村誌』
- 木瀬村誌編纂委員会編 1995. 『木瀬村誌』
- 北原糸子 2001. 東北三県の津波碑. 津波工学研究報告 18: 85-92.
- 桐生市史別巻編集委員会編 1971. 『桐生市史別巻』桐生市役所.
- 倉渕村誌編集委員会編 1975. 『倉渕村誌』倉渕村役場.
- 群馬県 1937. 『昭和十年群馬県風水害誌』群馬県.
- 群馬県 1947. 『昭和二十二年九月 大水害の実相』群馬県.
- 群馬県 1971. 『群馬県百年史上巻』群馬県.
- 群馬県議会事務局編 1954. 『群馬県議会史 第三巻』群馬県議会.
- 群馬県勢多郡敷島村誌編纂委員会編 1959. 『群馬県勢多郡敷島村誌』
- 群馬県防災会議 2024. 群馬県地域防災計画.  
<https://www.pref.gunma.jp/page/8129.html>（最終閲覧日：2024 年 8 月 10 日）
- ぐんまの土地改良記念碑編集委員会編 2008. 『ぐんまの土地改良碑』群馬県土地改良技術者会.
- 群馬町誌編纂委員会編 2000. 『群馬町誌資料編 3 近代現代』群馬町.
- 群馬町誌編纂委員会編 2002. 『群馬町誌通史編下 近代現代』群馬町.
- 小池末廣 2002. 『渋川市・北群馬郡・地方の石文』
- 国土地理院 2019. 地図で確認 先人が伝える災害の教訓.  
<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/bousaichiri190315.html>（最終閲覧日：2024 年 8 月 10 日）
- 国府村誌編纂委員会 1968. 『国府村誌』
- 阪本英一 2008. 『養蠶の神々—蚕神信仰の民俗—』群馬県

- 文化事業振興会.
- 里見村誌編纂委員会編 1960.『里見村誌』
- 砂防広報センター編 1998.『碑文が語る土砂災害との闘いの歴史』
- 首藤伸夫 2001. 昭和三陸津波記念碑 ―建立の経緯と防災上の意義―. 津波工学研究報告 18: 73-84.
- 榛東村誌編さん室編 1988.『榛東村誌』榛東村.
- 新町町誌編纂委員会編 1989.『新町町誌通史編』新町教育委員会.
- 関 俊明 2018.『【普及版】災害を語り継ぐ―複合的視点からみた天明三年浅間災害の記憶―』雄山閣.
- 勢多郡東村誌編纂室編 1998.『勢多郡東村誌 通史編』勢多郡東村.
- 勢多郡誌編纂委員会編 1958.『勢多郡誌』
- 総社町誌編纂委員会編 1956.『總社町誌』群馬県前橋市総社出張所.
- 高崎市史編さん委員会編 2004.『高崎市史通史編4 近代現代』高崎市.
- 高崎市史編さん委員会編 1995.『高崎市史資料編9』高崎市.
- 高崎市地域まちづくり推進事業鼻高まちづくり実行委員会 2001.『鼻高町の歴史と民俗』
- 武村雅之 2012.『関東大震災を歩く―現代に生きる災害の記憶』吉川弘文館.
- 玉村町誌編纂委員会編 1995.『玉村町誌通史編下巻』玉村町.
- 中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会 2006. 1783 天明浅間山噴火 報告書.  
[https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/rep/1783\\_tenmei\\_asamayama\\_funka/index.html](https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/rep/1783_tenmei_asamayama_funka/index.html) (最終閲覧日: 2024 年 8 月 10 日)
- 中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会 2010. 1947 カスリーン台風報告書.  
[http://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/rep/1947\\_kathleen\\_typhoon/index.html](http://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/rep/1947_kathleen_typhoon/index.html) (最終閲覧日: 2024 年 8 月 10 日)
- 千代田村誌編さん委員会編 1975.『千代田村誌』千代田村役場.
- 堤ヶ岡村誌編纂委員会編 1955.『堤ヶ岡村誌』群馬県群馬郡堤ヶ岡村役場.
- 富岡市市史編さん委員会編 1988.『富岡市史近代・現代資料編(下)』富岡市.
- 富岡製糸場世界遺産伝道師協会(蚕神総合調査プロジェクトチーム)編 2018.群馬の蚕神:群馬県蚕神総合調査報告書. 富岡製糸場世界遺産伝道師協会.
- 中島のあゆみ編纂委員編 1991.『中島のあゆみ』
- 日本気象協会前橋支部編 1982.『群馬県気象災害史』
- 萩原幸男・村田一郎・田島広一・長沢 工・井筒屋貞勝・大久保修平 1986. 活断層の重力調査(1): 1931年西埼玉地震の震源断層の検出. 地震研究所彙報 61, 563-586.
- 羽鳥徳太郎 1978a. 高知・徳島における慶長・宝永・安政・南海道地震の記念碑. 地震研究所彙報 53, 423-445.
- 羽鳥徳太郎 1978b. 三重県沿岸における宝永・安政東海地震の津波調査. 地震研究所彙報 53, 1191-1225.
- 原東水害記録編集委員会編 1978.『キャスリン台風 大水害のきず跡』
- 藤岡市史編さん委員会編 1994.『藤岡市史資料編: 近代・現代』藤岡市.
- 富士見村誌編纂委員会編 1954.『富士見村誌』富士見村.
- 富士見村誌編纂委員会編 1979.『富士見村誌 続編』富士見村.
- 前橋市戦災復興誌編集委員会編 1964.『戦災と復興』前橋市.
- 松井田町誌編さん委員会編 1985.『松井田町誌』
- 箕郷町誌編纂委員会編 1975.『箕郷町誌』箕郷町教育委員会.
- 宮 健人 2021. 烏川下流域における水害リスクの伝承と認知に関する研究―藤岡市小野地区を中心に―. えりあぐんま 27, 21-45.
- 室田町誌編集委員会編 1966.『室田町誌』室田町誌編纂委員会.
- 明和村誌編さん室編 1985.『明和村誌』
- 明和村役場村誌編さん室編 1982.『明和村の記念碑』
- 茂木一次 1953.『赤城南面 昭和水難誌』水難者慰霊会.
- 山田武麿・早川光三郎監修 1983.『群馬の古碑』上毛新聞社.
- 吉岡村誌編纂室編 1980.『吉岡村誌』吉岡村教育委員会.